

高齢者の独立により年間260億ドルの節約が可能

高齢者がナーシングホームへ早々と入所することを余儀なくさせ、アメリカのヘルスケア制度に年間260億ドルの負担をかけている障害の進行を遅らせるには、適切な食事と栄養補助食品、そして運動が重要であると、1999年6月に開催されたアメリカ上院議会委員会フォーラムにおいて発表されました。

老化に関する上院特別委員会において発言した米国国立衛生研究所(National Institutes of Health)のスピーカーおよび他の医療専門家によると、アメリカの高齢者における障害を防ぎ、進行を遅らせるには、カロテノイドであるルテイン、カルシウム、ビタミン E などの栄養素の摂取を増やすことが必要不可欠とのことです。

示唆に富むこの報告を受け、委員長であるチャック・グラスレイ上院議員(アイオワ州・共和党)は、「よく知られる病気が、高齢者の生活をいかに不自由に行っているかが明らかになりました。命にかかわらない病気でさえも、自宅で暮らすかナーシングホームで暮らすかという違いをもたらします。このことから高齢アメリカ人の衰弱を防ぎ、治療することに集中して取り組むべきです」と述べました。

上記のブリーフィングで発表された加齢研究連合(Alliance for Aging Research)の報告では、現在アメリカ合衆国は、独立した生活を営めない66歳以上の人々にかかるヘルスケアコストとして年間260億ドル以上を追加しているとの指摘がありました。

「平均寿命が延びる中、増加する高齢者が独立した生活を維持できることが重要であり、次世紀でも引き続き求められる課題となるでしょう」と加齢研究連合の理事、ダニエル・P・ペリー氏は述べています。

加齢研究連合は高齢者の独立を阻むものとして、視力喪失、精神および移動障害、そして「診断も治療もされない」症状における自制喪失を挙げています。

カリフォルニア州ラ・ホヤにあるスクリップス記念病院の眼科医師であるスティーブン・G・プラット医学博士は、65歳以上の人における失明の主因である加齢黄斑変性(AMD)のリスク軽減のために、ルテインのサプリメント摂取が必要不可欠だと言及しました。

「60~70歳代でAMDと診断された場合、病気は数十年にわたって進行していたこととなります。これにより、予防がAMD患者数増加を食い止める唯一の現実的な対策であるとの結論に達しました。予防は人生の早い時期から始めなければなりません」とプラット博士は述べています。

米国国立加齢研究所(NIA)のの副理事であるテリー・ウェトル博士は「生涯にわたって健康を改善する」食事の役割を強調しました。

「健康なライフスタイルの促進とは、適切な食事、運動、禁煙、アルコールや薬の誤った使用、また処方された投薬量へのこだわりを捨てること、予防重視のヘルスケアと検診、早め早めの診断、そして病気の治療すべてが含まれます」とウェトル博士は述べています。

ウェトル博士は、骨粗鬆症による骨折のリスク軽減で果たすカルシウムおよびビタミン D 補助食品の役割について語りました。

NIA の 加齢に伴う神経科学及び神経心理学研究プログラムの副理事であるマルセル・モリスン-ボゴラッド博士によると、ビタミン E はアルツハイマー病の発病を遅らせる確実な治療法のひとつと考えられ、現在研究が進められているとのことです。

今後50年間で、65歳以上のアメリカ人の数は2倍以上、85歳以上は4倍以上の約1800万人に達すると加齢研究連合は見積もっています。